

## 被災ペット救援の事業 No.1 命の大切さを伝える

2011年から福島県浜通りで人間が避難をして無人になった地域には多くのペット（家畜もですが）が取り残され、その状況は想像できないような悲惨なものでした。多くを助けることができませんでした。当法人が発足する前から設立に関わった数人のボランティアが保護した動物は合計で3000を超えています。大きな団体や地元の自治体が救済したペット合計はその何十倍もいるはずですが、14年以上が経過して無人地区で見かけ、何とか生きようとしている猫の数などは減ってはいるものの、原発事故で何年も人が住めない帰還困難区域という特別な環境下では終わりが見えてきません。

.....そして:現在は:.....

人の居ない地域に残された猫たちを救援。

犬は野生化すると危険で2016年ごろにはほとんどが保護をされました。



被災ペットの救済が必要なことを通信社の取材で伝えます

## 被災ペットの救援の事業 No.2 : 飢えから守る



給食のためにえさ場の設置が大切。 建物の解体に伴いえさ場の移動がありました。地元の方が手伝ってくれます。

帰還困難区域では、行政の許可のもとに猫の救済を行っています。

## 被災ペットの救援の事業 No.3 保護して救う、治療する



道路が通れても居住者がいない。人目もなく捨てる人もいます。

無人地区では保護が大事で



臀部を野生動物に噛まれていました。

保護後は清潔で暖かく、飢えません。  
だいぶ人に慣れてきました。

### シェルターワーク : 病弱で人になれない猫が多いのです



左：タロウ 16歳でお空に旅立つ。  
飼育ができない 飯館村の方から14年  
預かりました。口腔内のガンになりましたが  
穏やかに旅立ちました。



人慣れのためにも、遊んでくれる  
ボランティアは大切です。

## 被災ペットの救援の事業 No.4 : 続けて / 啓蒙、防災に役立てる

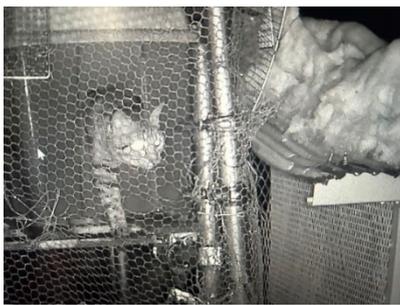
様々な被災地で、取り残されるペットは必ずいます。

人間の避難後も給食場が必要です。今後の減災のために、安全にペットたちに給食ができ、野生動物が入れない仕組みを試行錯誤しています。

完成したら、各地で役立つように提言をします。



イヌの置物は 15 年間寂しく



監視カメラで

♡里子先で♡



第1、 2 シェルターと周囲の預かりボランティアさんのもとの  
昨年度は 35～55 頭 を飼育しています